

留学報告書 ～自分で知ることの大切さ～

天津外国語大学
国際文化学部生（中期）

私は、8月26日から1月10日の約4か月半、天津外国語大学に留学していました。私自身台湾や香港など中国圏に旅行に行ったことはありましたが、中国本土に行くことは今回が初めてでした。

私が中国に興味をもったのは高校2年生の時です。理由は授業で中国語をやり始めたからです。それまでの自分は、中国に偏見を持っていました。それは偏見もあったのかもしれませんが、ただ知らないだけだと思いました。中国語を勉強してからは自分から知りたいという思いもあり、偏見などもなくなっていきました。それでも実際に行かないとわからないことがまだまだあると思ったのと、昔自分が思っていたように偏見を持っている人にも知ってもらいたいという思いと、語学を学びたいという思いで留学を決意しました。実際に中国について一番に思ったことは、綺麗ということでした。これもイメージになるのですが、もともとあまりきれいなイメージはありませんでした。しかし天津は特にですが街並みも綺麗ですし、ごみなども落ちていないことがありませんでした。そして次に驚いたことは、日本よりはるかに進んでいるということです。お金を払うときはすべて携帯で支払いをします。タクシーはどんな場所でも携帯で呼んでそのまま支払いをすることができます。食事のデリバリーサービスはどんな店でもやっていますし、何処にいても届けてくれます。最近では日本にも普及してきましたがまだまだ都会のほうでしか利用できませんし、私が帰国してからやっと少しだけ普及していると感じたので、少し先の時代を過ごしているような気分でした。

留学生活は、留学生寮で過ごしました。私のルームメイトはポーランド人でした。2人部屋なのですが、いきなり国籍の違う人と住むのは大変だと思いましたが、どんな生活をするのか、どのような習慣があるのかが知れるいい機会にもなりました。例えば、ポーランド人はとても穏やかな性格で家族や友達を大切にする人が多いと聞いたことがありました。確かに私のルームメイトは、結構な頻度で家族や友人に電話をしたり、よく友達が部屋に来ることがあり、本当にそうだなと思いました。

留学生寮ではいいところがたくさんあります。たとえば一階にロビーがあるのですが、そこでクラスメイトと授業の復習やプレゼンの準備をしたりご飯にすぐ行けたりするので、留学生の様々な国の友達とコミュニケーションをとることができます。また、住んでいる階が同じだと何度も顔を合わせたりするので、そこから友達になったりすることもたくさんありました。キッチンも階ごとにあり、共同になるので、友達になった留学生同士で、自分の国の料理を作って振る舞うなどもしました。初めはホームステイのほうが良いと思っていたのですが、私は今回体験して、学生寮のほうが圧倒的に良いなと感じました。

学校生活では初めに少しだけテストのようなものをして自分に合うクラスを自分で決めることができました。私は当時のレベルに見合ったクラスを選びました。しかし友達はレベルを上げたクラスを選んでいました。今思えば少しレベルを上げてよかったなと思いました。初めは言っていることも聞き取れない状態だったので、1つ1つの授業についていくのが大変でした。よく語学はいつか急に聞き取れる日がやってくるといいます。私はその日が来ることを信じて毎日コツコツ勉強していました。そうしたら本当に急に聞き取れ、話せるようになった時が来ました。その時はとても嬉しかったのを覚えています。

クラスメイトは明るい人が多く、発言が多いクラスだったので、自分も積極的になれた気がします。語学の勉強は、授業だけではなく、私はよく午後に友達と天津の様々な場所へ散歩をしていました。最初は興味本位で始めたのですが、実際にやってみると中国人のリアルな生活がみえたり、隠れたおいしい店を見つけたりすることができました。そして

一番良かった点が、語学力の向上でした。なぜかというとな中国人の主に年配の方はとてもよく話しかけてくれます。私たちが日本語を話しながら歩いていると、「どこから来たの？」や、日本人と分かれば「日本ってどんな国なの？」「日本と中国どっちがいい？」などいろいろなことを話しかけてくれます。しかし私たちは完璧に中国語が話せるわけでもないので曖昧な回答になってしまったり、何度も聞き返してしまったりしました。しかしそんなときでも中国人の人はあきれず最後まで話に付き合ってくれました。

このようなことが結構多くあったので、私はこの散歩でも語学力が上がったのではないかと思いました。また、中国人のやさしさにもたくさん触れることのできるいい機会だったなと思いました。

生活面では、10月の初めに国慶節という中国の休日がありました。その時にクラスの韓国人に誘われて、内モンゴルに行きました。内モンゴルは中国国内ですが、モンゴルの近くなので顔つきも生活の仕方もモンゴルとほとんど同じです。日本は島国なのでなかなか近くの国に似ていることなどが無いですが、中国は様々な国と面しているので、国内にいてもその国に近い体験ができることが魅力的だなと思いました。また、これは天津にも言えることですが、昔ヨーロッパの植民地になったこともあるので、街並みがヨーロッパの様できれいなところがたくさんあるのも魅力です。ここでは、砂漠でラクダに乗ったり、アクティビティをしたりモンゴルゲルに泊まったり、現地の食事をしたりしました。ここはきっと中国に留学していなかったら訪れられなかった場所だろうなと思います。

また、休日には、青島（チンタオ）ビールで有名な青島や上海へも旅行に行きました。国内旅行は、交通費なども比較的安いのでとても行きやすかったです。中国には様々な方言があるので、普段自分が住んでいる地域から出ると、また違った中国語を聞けるという面白さもあります。中国の歴史を知っているとその部分でも楽しめたりします。中国は広くなかなか日本から旅行するとなると様々な場所には行けないので、留学中は休日を使って様々な場所に旅をすることは、とてもお勧めしたいことだと思いました。

そして私がこの留学を通して思ったことは、最初に述べた通り、自分で体験、経験してみれば考え方や見方が変わることです。実際に中国人と接してみると、中国人は明るくて親切な人が多いということです。私は日本より多いのではないかと感じました。お店の店員さんにしても、街を歩いている人にしても、先生や天津外国語大学の生徒にしても困っていたら必ず助けてくれます。近所の人なのではないかと思うくらいです。そのような中国人のやさしさに触れ、知ることができた今回の留学は自分にとってとても貴重な経験となりました。また、次も天津への留学が決まっているのでより一層中国を知りたいなと思いました。



